

## 事業報告書

日時	平成 31 年 2 月 9 日（土）14:00～16:00
目的	東日本大震災から 8 年、熊本地震から 2 年が経過した。地震が比較的少ない沖縄県でも地震や津波が来ないという事は決してない。さらに沖縄県は高潮や台風による浸水被害が多い地域である。わたしたちの住んでいる地域の災害と特色を知り、日々の生活の中でできる女性目線の防災・減災の方法を紹介する。また防災に男女共同参画の視点がなぜ必要なかという事例を紹介しながら女性防災リーダーへの導入を図る。
対象	関心のある方
講師	琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 准教授 神谷 大介 氏
会場	ているる 1F ふれあいサロン
参加者数	16 名 （ 女性 9 名 ・ 男性 7 名 ）
講演内容 (概要・次第)	「地域の災害と特色を知る」 ・ 防災、減災とは？ ・ 自然災害リスク ■ リスクに対して事前に備える：風水害 ・ 特別警報、避難勧告がでていないのに？ ・ 避難しない心と態度 ・ 特別警報の前に ・ 沖縄の水害を考えてみる（沖縄県洪水浸水想定区域） ・ 国場川浸水想定区域最大 3～5m、など (例) 2014 年台風 8 号（沖縄）と豪雨、西日本豪雨災害、倉敷市真備町ハザードマップ、など ■ リスクに対して事前に備える：地震・津波災害 ・ ブロック塀の倒壊 ・ T w i t t e r での混乱 ・ 生活している地域の地震リスクを確認してみる（地震ハザードステーション） ・ 地震保険加入率 ・ 東日本大震災を振り返る ・ 沖縄の津波リスクは？（沖縄県津波浸水想定について） ■ 災害への備え ・ 近年の主な大規模地震災害（死者数） ・ 受援力：必要な物の明確化
講演内容 (概要)	■ リスクに対して事前に備える：風水害 最初に災害に対する備えについて災害を「耐える」ことは難しいので災害を「かわす」という考え方で備えてほしいという話から始まった。 气象台情報を判断し、今後どのような状況になるのか。どういった対応をすればよいのか。などをクイズ形式で行い、次に沖縄県での過去の災害の事例をあげ、その際の雨量や自治体の対応などの説明も行った。沖縄県は台風時の対応（暴風警報→休み）が全国でも珍しく決まっているが、大雨（2014 年にでた特別警報）のときの対応が決まっていなかった。人は非常時ほど冷静な判断ができないので、あらかじめ家族や職場でも確認しておくべきと説明し、実際に自分たちの家や職場を沖縄県 HP に掲載されている「沖縄県洪水浸水想定区域」で調べた。 ■ リスクに対して事前に備える：地震・津波災害 大阪北部地震のブロック塀倒壊を例にあげ、コンクリート住宅が多い沖縄でも倒壊する可能性が多にあることを指摘し、ブロック塀の代替や、補強など。対応できる場合には早急に対応し、

隣接する住宅でそういった箇所がある場合には、「リスク箇所」として頭の中に入れておくだけでも違う。また、生活している地域の地震発生率について、「地震ハザードステーション」というサイトで自宅・職場をそれぞれ調べた。その確率は、火災で被災したり、空き巣被害に合う確率よりも高いことを説明した。地震による津波のリスクについて「沖縄県津波浸水想定」で色々な地域を調べた。そこで注意しないといけないのは想「想定」とはひとつのパターンでの計算のため、その結果 66%が想定区域の「範囲外」で被災しているとして指摘した。

#### ■災害への備え

災害の備えとして、3日分といわれるが、沖縄県は海に囲まれているので援助物資の輸送は航路・空路を使用することになる。津波で被災した場合にはどちらも使用できなくなる可能性があるため、3日分以上の備蓄が必要になるのでは。沖縄県はバーベキューが盛んで、ポークやシーチキンの購入も多いので、そういった生活必需品を備蓄することをオススメしていた。

### 参加者の声

(自由記載欄より抜粋)

- ・津波の到達時間をよく覚えておこうと思いました。
- ・またあれば受講したい。
- ・またご講演いただけたらと思います。
- ・自分の住んでいる地域の状況を知れてよかった。
- ・レジュメ、HPを含め具体的な説明で大変理解出来た。ありがとうございました。
- ・民生委員さんや地域のリーダーさんと学んでいきたい。ありがとうございました。
- ・降雨量によってどんな現象がおきるのか、どれくらいの確率で被災する可能性があるのかイメージがしやすかった。実際に生活の中で備える意識が変わった。沖縄付近の震央分布図をみて本当にたまたま沖縄に大地震がおきていないだけだとわかってゾッとした。
- ・在宅で実践したいと思います。

### 写真



神谷 大介氏



### 主催等

主催：沖縄県・(公財)おきなわ女性財団  
共催：内閣府

